**研究課題名「滲出型加齢黄斑変性に対するアフリベルセプト Treat and Extend 法の3年成績」に関する情報公開**

**１．研究の対象**

２０１３年１月から２０１５年９月までにアフリベルセプト TAE 法（原則、延長・短縮は２週毎、最大投与間隔は１６週）による治療を開始し、その後３年以上経過を追えた方。

**２．研究目的・方法・研究期間**

滲出型加齢黄斑変性（AMD）に対する治療法は、主にアフリベルセプト、ラニビズマブをはじめとした抗 VEGF 薬による Treat and Extend（TAE）法および滲出性病変が認められた時のみに投与する pro re nata（PRN）法、光線力学療法（PDT）による治療の３つに大別される。今までの文献報告ではアフリベルセプトによる TAE 法が最も視力の改善および維持率が良いとされているものが多く、当院眼科ではアフリベルセプトによる TAE 法による治療を最も多く行っている。長期的に TAE 法を継続した場合の視力や網膜・脈絡膜の変化、治療回数、治療間隔について多角的に研究し、現在行っている治療法が有用であることを証明することを目的とする。

当院電子カルテより、対象患者の性別、年齢、視力、視野、屈折、角膜曲率半径、角膜厚、眼軸長、眼底所見、光干渉断層計、光干渉断層計血管造影、眼底写真、蛍光眼底造影、細隙灯顕微鏡検査、罹病期間、現病歴、既往歴、家族歴、使用薬剤、同薬剤投与回数のデータを取り出して図表にまとめ、全体を未治療群、抗 VEGF 薬治療歴あり群、光線力学療法（PDT）歴あり群の３群に分類し、それぞれ TAE 開始時、開始後１年、開始後２年、開始後３年における検査所見や臨床経過、網膜形態の変化の関連を分析する。

データをまとめる際には名前、住所、生年月日などは用いず、資料は匿名化する。本研究において利益相反は発生しない。

**３．研究に用いる試料・情報の種類**

情報：性別、年齢、視力、視野、屈折、角膜曲率半径、角膜厚、眼軸長、眼底所見、光干渉断層計、光干渉断層計血管造影、眼底写真、蛍光眼底造影、細隙灯顕微鏡検査、罹病期間、現病歴、既往歴、家族歴、使用薬剤、同薬剤投与回数、等

**４．お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科眼科学　武内　潤

０５２－７４４－２２７５

名古屋市昭和区鶴舞町６５

研究責任者：名古屋大学医学部附属病院眼科　片岡　恵子